

令和7年10月27日

府中市長 高野 律雄 様

府中市下水道事業経営戦略等検討協議会
会 長 長 岡 裕

府中市下水道事業経営戦略等について（最終答申）

令和7年4月28日付7府都下第25号で諮問のあったことについて、次のとおり答申します。

なお、留意されるべき事項を附帯意見として申し添えます。

1 はじめに

府中市下水道事業は、令和2年4月に地方公営企業法の一部を適用し、官公庁会計から企業会計へ移行し、これに伴い、令和3年3月に府中市下水道事業経営戦略（以下、「経営戦略」という。）を策定した。

経営戦略は、策定から5年が経過しており、その間、新型コロナウイルス感染症の拡大や急激な物価上昇等、経営環境が大きく変化し、国からは経費回収率の向上に向けたロードマップの作成や定期的な検証と見直しを行うことが求められている。

また、平成17年度に改定した下水道使用料について、現在まで約20年間にわたり同じ料金体系を維持してきた。

しかしながら、近年の下水道施設の老朽化や物価上昇に伴う維持管理費の増加等に加えて、令和8年4月には、毎年東京都に支出している流域下水道維持管理負担金の増額が見込まれるなど、下水道事業経営を取り巻く環境は、ますます厳しい状況にある。

このように変化する社会情勢に柔軟に対応し、安定した事業運営を継続するため、本協議会では専門的な知見や市民としての視点で、4回にわたり様々な観点から審議を行った。

2 答申内容

(1) 府中市下水道事業経営戦略の改定案について

府中市下水道事業は、大幅な人口減少の予測はないものの、使用料収入の増加は見込まれない中、耐用年数を迎えた施設の改築更新や震災時にも機能を維持できるための地震対策、さらには雨水排水機能の維持管理等を進める必要があり、下水道事業の経営を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。

このため、将来にわたり安定的に事業を継続していくためには、中長期的な視点に立った計画的な経営基盤の強化と財政マネジメントの向上させることが重要である。

別冊の経営戦略においては、「暮らしと歩む 下水道 これまでもこれからも」を基本理念とし、施設や事業運営における現状の課題と、解決のための実現方策を体系的に整理されており、収支改善に向けた取り組みや方向性が具体的に示されている。

また、能率的かつ安定的に下水道事業を実施していくための財源については、下水道使用料の適正化を踏まえた今後10年間の投資・財政計画が示されており、持続可能な事業運営を確保するための経営戦略としては妥当な内容であることを認める。

(2) 下水道使用料の適正化について

令和7年9月16日付「府中市下水道事業経営戦略等について（中間答申）」のとおりとする。

3 附帯意見

(1) 府中市下水道事業経営戦略の改定案について

ア 経営戦略の見直しについて

経営戦略は、中長期的な計画であることから、下水道事業の現状と課題を常に意識し、5年に1度の見直しを図り、市民の理解と協力を得ながら、より一層の経営効率化に努められたい。

イ 下水道施設改築基金及び建設改良積立金について

将来の改築等建設改良に充当するための財源として、それぞれ順調に積立てることができているが、取崩しを行う場合はそれぞれの経理特性に留意し、下水道施設改築基金は府中市公共下水道ストックマネジメント計画等の計画的な工事の財源とし、建設改良積立金は緊急的な工事に伴う資金不足の財源とすることが望ましい。

(2) 下水道使用料の適正化について

令和7年9月16日付「府中市下水道事業経営戦略等について（中間答申）」のとおりとする。